

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(尾鷲高等学校 全日制)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		・個に応じ個を生かす教育の実践 ・当たり前のことが当たり前ででき、積極的に地域や社会に貢献する生徒の育成
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	・高校生活を通じて多様な他者と協働しながら自らの進路希望を実現することができる生徒 ・社会生活に必要なマナー等が身についている生徒 ・地域を支えるリーダーとなる人材としての資質が備わっている生徒
	【グラデュエーション・ポリシー】	
	ありたい教職員の姿	・生徒一人ひとりの進路希望に対応した教育が実践できる教職員 ・社会生活を送る上での「当たり前」を実践し、生徒の範となっている教職員 ・保護者、地域から信頼され、目指す学校の姿に基づいた指導ができる教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	【生徒】 よくわかり参画意欲の高まる授業 一人ひとりがあるのまの自分が認められているという実感を持ち、安心して学校生活を送ることができる学校環境 【保護者・地域】 進路希望の実現 地域を支えるリーダーとなる人材の育成	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	【保護者】 子どもの進路希望を実現させる進路指導 【中学校】 高校生活を通して成長し、自らの目標を実現していく生徒の育成	【保護者】 教育活動への支援と協力 【中学校】 尾鷲高校への進学に向けた連携 ともに子どもの成長を支援するための情報共有
(3)前年度の学校関係者評価など	・ICTの利活用について、データ共有なども進んでいるようであるが、引き続き利活用を続けていただきたい。 ・学びの保証として、自習時間の削減に努めていただきたい。 ・いじめの未然防止の観点から、生徒が相談しやすい環境を構築してほしい。 ・尾鷲高校の生徒は町の中でもよく挨拶してくれる。挨拶ができる生徒をはぐくむことは大切である。 ・SNSトラブルの防止に努めてほしい。 ・総勤務時間の縮減について、教育の質を落とさずにどのように業務改善等を進めていくのか。 ・「まちいく」やキャリア教育講演会など、地域の社会人と触れ合う機会を多く作ってほしい。	

(4)現状と課題	教育活動	・ICTの利活用によって生徒の学習成果につながるような授業方法等について、引き続き教職員で研究・共有していく必要がある。 ・生徒指導に関して、共通した指導ができるよう情報共有等を通じて、共通理解をさらに進めていく必要がある。 ・生徒の進路希望実現のため、それぞれの進路希望に応じたサポート体制をより強化する必要がある。 ・人権学習について、小・中学校での学びを踏まえた学習を構築する必要がある。
	学校運営等	・中学校卒業予定者の今後の減少を見据え、本校の今後の在り方(学科構成や学びの在り方など)について、校内だけでなく地域の関係機関とも議論を進めていく必要がある。 ・行事等でのチーム編成などの場面において、生徒数の減少により従来通りの編成が困難になることが予想される。こうした事態にどう対応していくか検討しなければならない。 ・教職員が、様々な事態に対しての危機管理意識を高く持つ必要がある。 ・教職員が、生徒とかかわる時間をしっかりと確保し、かつ意欲的に業務に取り組めるよう、業務の精選・簡素化・効率化をさらに進めていく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・基礎的・基本的な学力の定着を図り、各学科・コースが育成したい生徒像の実現に向け、授業を充実させる。 ・進路指導における対話を重視し、生徒一人ひとりに進路実現に対して必要なことへの理解を深めさせる。 ・社会人として生活していくための基本的なマナー、人権感覚、命を大切にすることを育成する。 ・すべての教職員がICT機器を活用した教育に積極的に取り組む。 ・地域と協働した取組を推進し、地域への理解を深める。
学校運営等	・教職員のスキルアップのための校内研修を定期的実施する。 ・教職員が、生徒とかかわる時間をしっかりと確保し、かつ意欲的に業務に取り組めるよう、教職員の総勤務時間の縮減に取り組むとともに、業務全般について効率化を進める。 ・業務の円滑な引継ぎと教職員・分掌間の報告・連絡・相談を徹底し、効率的な校務運営を行う。 ・風通しの良い職場づくりに取り組み、教職員間の対話を大切に、学校に対する思いを共有しチーム尾鷲として教職員一丸となって日々の業務に取り組む。 ・尾鷲高校の魅力的な取り組みを保護者や中学校、地域に積極的に発信する。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・自らの進路希望実現に向けて意欲的に学業に取り組むことができる生徒 ・規範意識や基本的生活習慣が身についている生徒 ・部活動、生徒会活動、ボランティア活動などに積極的に取り組むことができる生徒 ・お互いを認め、尊重しあい、協働して学校生活を送ることができる生徒 ・地域について積極的に理解することに努め、地域との連携に意欲的に取り組むことができる生徒
---------------------------------	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
日々の授業	学力定着のため年間自習時間数を 50 時間以内に収める。(教員の急な都合による年休や病休による突発的に発生するものを除く) 【成果指標】 ・年度末に自習時間をカウントし、数値目標以内であれば達成	・1 月 24 日時点で自習時間は 34 時間であり、目標を達成できる状態である。	
生徒のICT機器活用	Google Classroom を中心に、ドキュメントファイル等を用いた課題の作成、提出を日常的に行えるようにする。 【成果指標】 ・年度末にアンケートを実施。習熟度を評価し、100%の生徒が十分に習熟していると評価できれば達成	・85.3%の生徒が回答。そのうち、「クラスルームで送られてきた連絡を確認することができる」の項目に「できる」と答えた生徒は93%であった。	
希望進路の実現 【3年生：進学】	・対話を重視し、生徒個々の進路実現に向けた意識の向上をはかる。 ・進学希望生徒に向けた説明会を実施する。 【活動指標】 ・説明会を年間7回実施 【成果指標】 ・国公立大学合格者を複数出す。 ・短大、看護学校、各種専門学校進学希望者の合格者を90%以上にする。	・国公立大学合格者は1月末時点で2名。一般選抜出願予定者は10名。 ・短大、看護学校、各種専門学校の進学希望者合格率は1月末時点で90%以上達成。 ・進学希望生徒に向けた説明会は年間9回実施済み。	
希望進路の実現 【3年生：就職】	・対話を重視し、希望職種と個人の特性のマッチングをはかる。 ・就職希望生徒に向けた説明会を実施する。 【活動指標】 ・説明会を年4回実施 【成果指標】 ・就職内定率を90%以上にする。	・1月末時点で就職内定率は90%以上を達成。 ・就職希望生徒に向けた説明会は年間5回実施済み。	
身だしなみやマナーの向上	朝の挨拶運動や各集会、頭髪服装指導において、身だしなみを徹底し、挨拶や言葉遣いなど、コミュニケーション力や社会人としてのマナーの認識向上を図る。 【活動指標】 ・毎朝、校門および生徒昇降口付近にて挨拶運動と身だしなみ等の指導を実施 【成果指標】 ・生徒アンケートで9割以上の肯定的回答を得る。	・毎朝の挨拶運動を通じて、挨拶の習慣を身につけることができた。また、学校生活を通じて挨拶を行っている生徒は9割以上というアンケート結果が出た。 ・服装面についてもおおむね正しい着こなしができていた。	

人権学習等の授業を公開する	人権教育推進協議会、紀北地域人権教育推進小中高等連絡会議(尾鷲市教育委員会主催)において、人権学習等の授業を公開し、事後の意見交換会で出された課題について改善策を検討する。 【活動指標】 ・1学期の人権学習を公開し、事後、意見交換や協議を実施	・6月26日に実施。1学期の各学年の人権学習を公開し、出席者と協議を行うことができた。	
保護者向けの人権通信「素心」を発行	人権感覚のより良い向上を目指し、啓発活動を推進する。 【活動指標】 ・年1回以上発行する	・本年度は人権教育課の「人権が尊重される三重をつくる子どもサミット事業」に取り組み、その成果として人権啓発チラシを作成し、配付することをもって通信の発行とした。	
教員向けの人権通信「勿忘草」を発行	日々の授業改善や生徒の人権感覚の向上につながるよう内容を工夫する。 【活動指標】 ・年1回以上発行する	・素心と同様、子どもサミット事業での成果物(啓発チラシ)の配付をもって、通信の発行とした。	
教員向けの研修の充実を図る	人権問題への認識を深めるため、県教育委員会人権教育課と連携を図り、研修会を実施する。 【成果指標】 ・事後アンケートを実施する	・子どもサミット事業と連動し、ヒューリア三重の方を講師に、8月23日に職員研修及び事後アンケートを行った。	
学習内容の充実	基礎から応用まで、生徒個々の状況に応じて指導内容の個別最適化を図る。 【成果指標】 ・1つ以上資格を取得した生徒の割合が80%以上	・1,2年生の取得率は94.2%であったが、全体では62.6%であった。	
地域と連携した学習の推進	地域の事業所などへの訪問、講師の招へいなど、地域と連携した学びを推進する。 【成果指標】 ・年1回以上、地域の事業所等へ訪問する	・保育園でのインターンシップや税理士による授業などを実施した。	
教科による資格取得指導	全員受験指導、補習指導の実施。 ガス溶接(2年)80%以上 計算技術3級(1年)100% 危険物丙種(1年)80%以上の合格 【成果指標】 ・昨年度における合格率との比較	・ガス溶接(2年)受験者23名、合格19名 ・計算技術3級(1年)受験者30名、全員合格 ・危険物丙種を受験せず乙4類を受験、30名中2名合格	
学科における基礎学力定着指導	基礎力診断テストでのD3対象者に補習を実施し、基礎学力の定着を目指す。 【成果指標】 ・次回基礎力診断テストでのD3対象者数が減少	・今年度は基礎学力の定着を目指した補習よりも各資格試験に力を入れた。	
進路指導	希望進路(3年)の実現を目指し、システム工学科全教員による個別面接、学力向上の指導を実施。学校斡旋希望者の100%内定を得る。 【成果指標】 ・昨年度における内定率との比較	・学校斡旋希望者内定100%。	

改善課題

- ・クラスルームで送ったアンケートに回答しているにもかかわらず、「クラスルームの連絡を確認できない」としている生徒が7%いた。「連絡が来ても確認しない」生徒も一定数いると把握しているが、今回の質問意図はそうではないので、生徒の読解力に課題があるように思われる。
- ・進学希望者について、第一志望校へのこだわりが視野の狭さにつながる危険性がある。
- ・就職について、企業が求める高校生像と現実の乖離(例えば欠席日数)がある。
- ・「働くこと」や「自立すること」についてさらに早い段階から意識付けする必要がある。
- ・校外での服装の乱れやマナーが身についていない等のご意見をいただくこともあり、校内だけではなく、校外でも尾鷲高校生としての自覚を持たせる指導が必要である。
- ・地域と連携した学習の推進については、事前事後の学習や教科書との関連性などを考慮して年間の指導計画を立て、より効果的に実施できるよう検討する必要がある。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
希望進路の実現 【1, 2年生】	・進路分野別説明会を2回、進路講話を3回、2年生徒向けバスツアーを1回実施して、生徒の意識向上をはかる。	・進路分野別説明会を6月と7月に、2年生向け進路バスツアーを12月に実施した。	
いじめ防止と早期発見	学年主任を通して、担任、関係教諭(状況に応じて授業担当者・部活動顧問等)と連携を図り、いじめの未然防止や早期発見、早期対応に当たる。 【活動指標】 ・積極的に職員室に訪れ学年主任と情報共有を行なう(欠席日数などの確認検証)。 ・学期1回、いじめに関するアンケートを実施	・各学年と連携し、早期に対応することができた。 ・年間2回のアンケートを実施し、いじめの発見や未然防止を行うことができた。	
情報共有	週に1回部会を開き、その時々課題を整理整頓し、情報共有をすることにより問題行動の未然防止に努める。 【活動指標】 ・年間30回以上、部会を開催する 【成果指標】 ・過去3年間の特別指導の延べ人数の平均を下回る	・年間30回以上の部会を開催し、情報共有を丁寧に行い、情報共有を行うとともに、さまざまな問題を想定して、事前の動きの確認などを行った。 成果指標は達成した。件数は3年間平均12件、本年度は11件であった。	
生徒会	生徒会担当の業務進捗状況を確認し、協力体制を構築する。また、アンケートを通じて、改善できる点を来年度に向け絞り込む。 【成果指標】 ・行事後のアンケートで8割以上の肯定的回答を得る	・生徒会担当の協力体制を構築することができた。また、生徒の意見を取り入れ、体育祭、文化祭の行事内容をブラッシュアップし、実施することができた。行事後のアンケートでも肯定的な回答を得ることができた。	
刊行物の改善	「入学のしおり」の内容を精査し、データ化できるものを積極的にデータ化していく。 【成果指標】 ・1つ以上の提出書類について、オンラインでの手続きに変更	・2つの書類について、オンライン化することができた。	
中学校・地域への情報発信	各中学校や地域への情報発信を推進するため、積極的に報道機関等への情報提供を行う。 【成果指標】 ・月1回以上、本校の取組が報道される	・行事ごとに情報提供を行い、おおむね達成することができた。	

総勤務時間の縮減	【取組内容】 業務の精選・効率化・平準化を進め、時間外労働の縮減を図る。また、教職員の休暇取得を促進する。 【成果指標】 ・長期休業中に閉校日を計3日設け、いずれの日も80%以上の教職員が終日休暇を取得する。 ・月1回程度の定時退校日を設け、80%以上の教職員が定時退校する。 ・すべての部活動が週1回以上の休養日を設ける。 ・放課後に行う会議の70%以上を60分以内に終了する。 ・4～12月の休暇(年休・特別休暇)の取得日数を一人平均15日以上とする。 ・1人あたり時間外労働時間を月平均30時間以下にする。 ・月45時間を超える時間外労働をする教職員を0人にする。 ・年360時間を超える時間外労働をする教職員を0人にする(4～1月の10か月間で300時間超	・閉校日は4日間設定。90%の職員がこの期間に休暇を取ることができた。 ・定時退校日に定時退校できた割合は1月末で77.6%であった。 ・すべての部活動で週1回以上の休養日を設けることができた。 ・放課後行う会議は81.8%が60分以内に終了した。 ・年休取得は平均13.6日。特別休暇(夏季休暇、健康管理休暇など)は平均5.5日の取得であった。 ・1月末現在、平均24.6時間。 ・1月末現在、16.7%の職員が45時間越えとなっている。 ・1月末現在、360時間超えは21人。
改善課題		
・年度当初に年間行事予定に記載がないものや追加された行事などの情報提供を速やかに遺漏なく行うかが課題である。 ・データ化できるものは積極的にデータ化を進めた。一方で、データの管理の在り方をしっかりとルール化する必要がある。 ・定時退校日の周知が徹底できなかった。年度当初に、年間の計画を示す等改善が必要。		

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・「働くこと」や「自立すること」への意識付けは徹底して行ってほしい。 ・尾鷲高校生に限らず、子どもの読解力については、低下している。読書週間を設けるなど、改善に努めてほしい。 ・企業が求める高校生像との乖離については、企業としての思いもあるので学校だけではどうにもならない。考えをすり合わせ、埋め合わせていくしかない。 ・服装などについては大きく乱れているとは感じない。マナーや身だしなみがなぜ必要なのかということをさらにしっかり理解させてほしい。 ・地域には今後新しい産業が来る可能性もある。既存の地元企業と合わせ、これらを紹介することをおして地域と連携した学習を推進することもできるのでは。 ・総勤務時間の縮減目標はぜひ達成してほしい。 ・データ管理の徹底は重要であるが、問題は管理する場所ではなく、管理の在り方である。 ・働き方改革を進める一方で地域と連携した時間外取組にも一定の意義がある。職員の負担を軽減しつつ、これら連携が進められるとよい。
---------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・尾鷲高校生にどういう力を身につけ(自主的に学ぶ力や読解力、ルールを遵守することなど)、社会に送り出すのかということを再度確認する必要がある。そのうえで、授業改善や探究学習のブラッシュアップを行ってほしい。 ・地域連携については、学校としては地域と連携することによってどういう生徒を育みたいのか、地域については学校と連携することで将来的に地域を支えるという人材を育みたいかといった点を、対話をとおして共有する必要がある。
--------------	---

学校運営についての改善策	・総勤務時間縮減に向け、業務の見直しを再度行う必要がある。必要な業務、そうでない業務を精選し、ライフワークバランスの取れた働き方につなげる必要がある。 ・データ管理の在り方について、管理方法等について人任せにせず自分事として、職員が共通理解をしておく必要がある。
---------------------	--